

先端科学技術研究科 修士論文要旨

所属研究室 (主指導教員)	インタラクティブメディア設計学 (加藤 博一 (教授))		
学籍番号	2111273	提出日	令和 5年 1月 19日
学生氏名	山内 翔太郎		
論文題目	ロボットによる心地よい「話しながらなでる」動作の設計と評価		
要旨			
<p>タッチの中でも「なでる」という動作は、自律神経系や内分泌系を介すことで心身のリラクゼーション効果をもたらすことが実証されている「なでるケア」に関する研究の例として、なでる動作と発話を伴ったコミュニケーションが、ケアの質の向上に有効であることを示した研究や、人をなでるロボットの発話タイミングや発話内容が、ロボットへの信頼感の向上に繋がることを示した研究が存在する。しかしこれらの研究は「話しながらなでる動作」が重要であることを示しているが、人がどのように「話しながらなでる動作」を行うのかは明らかにされていない。そこで本研究では人を介抱する状況を想定した「話しながらなでる動作」のモデル化を目的とし、「話しながらなでる動作」を解析した。実験ではマネキンを用いて被験者に「話しながらなでる動作」を行ってもらい、被験者数19名の実験結果から手の座標や発話音声を取得した。そして取得した情報をもとに、「話しながらなでる動作」のなでる速度や話す速度、なでている最中の手を折り返すタイミングの傾向などを解析した。実験の結果、「なでる速度」と「話す速度」には正の相関があることが明らかになった。また被験者が手を折り返したタイミングは「文章の切れ目」を発するタイミングが最も多いという特徴が見られた。この結果は、「心地よい話しながらなでる動作」を行う際に人は意識的になで方や話し方を調節していることを示唆している。</p>			